

令和7年度企画展「半平太と京都」

開催要項

1.趣旨

2025(令和7)年は武市半平太没後160年に当たる。尊王攘夷思想を掲げる土佐勤王党を率いた半平太にとっては、朝廷のお膝元である京都で活動できた、文久2～3年にかけての半年ほどの歳月が最も充実していた時期であった。

近世の京都は、将軍の上洛がなされた初期を除くと、江戸・大坂との対比で文化都市としての側面が取り上げられることが多い。一方、幕末期には、約230年ぶりに行われた将軍の上洛に象徴されるように、政治の中心が幕府所在地の江戸から移ることになった。幾多の政局が繰り広げられたこの時期の京都は、「政治都市」と評価されている。幕末という時代に京都という都市の中で、政治家として半平太がどのような人脈を持ち、どこでどのように活動していたのか、その実態は意外と知られていない。

本企画展では、半平太ら幕末の土佐出身者が活躍する背景となる土佐藩と都市京都の関係を振り返るとともに、書状を中心とする資料群から、半平太が京都で築いた人脈や足跡を辿り、一連の政治活動の実態を紹介する。合わせて半平太にとって京都という都市のもった意味を考察する。

2.会期

令和7年7月19日(土)～9月15日(月・祝)

3.会場

高知県立坂本龍馬記念館新館2階 企画展示室

〒781-0262 高知県高知市浦戸城山830

4.展示構成(予定)

第1章 土佐藩と京都 半平太一活躍の背景

本章では、江戸時代の土佐藩山内家と京都の関係について取り上げる。

江戸時代の大名家・藩は様々な形で都市京都との関係を有していた。天皇・朝廷・公家や在京の幕府役人らとの関係、京都に所在した屋敷や留守居など、こうした京都における諸関係や施設・職制は、江戸時代を通じて形成・維持された。文久2年に上洛した半平太が京都での政治活動を円滑に進める上で、これらの前提条件は欠かせないものだった。

そうした藩と京都の関係の一端を、土佐藩山内家の事例をもとに紹介する。

第2章 上洛から勅使随行まで

本章では、半平太が京都に入った文久2年(1862)8月25日から、勅使の江戸下向に随行して京都を発つ10月12日までの期間を中心に取り上げる。

上洛した半平太は、尊王攘夷の志を同じくする公家や諸藩の志士らと日々会談を積み重ね、密接な連携関係を構築していく。その政治活動の成果として、攘夷実行を促す勅使の江戸への派遣が決定した。

半平太の動向と人脈の実相に焦点を当て、この時期の政治家・半平太に迫る。

第3章 帰洛から土佐帰国まで

本章では、勅使の江戸下向が成功して半平太が京都に戻った文久2年12月23日から、土佐へ帰国する山内容堂の後を追って京都を発った、翌年4月4日までの期間を中心に取り上げる。

江戸から京都に戻った半平太は、再び公家や諸藩士と連携して国事周旋活動に奔走する。そんな中、正月25日に土佐藩隠居山内容堂が上洛する。

上土への昇格、京都留守居加役への就任など、半平太の実績が評価される一方で、主君容堂との意見の相違に苦悩する半平太の様子に迫る。

エピローグ 京都で交錯する半平太・龍馬

文久2年3月に脱藩した龍馬は、9月には江戸に滞在しており、12月までには勝海舟の弟子となったようである。12月12日には、江戸へ下向してきていた半平太や久坂玄瑞・高杉晋作らと酒を酌み交わしたと伝えられる。次いで年末には神戸の勝の元を訪れ、年始から一週間ほどは勝の命で京都を訪問している。そして2月には藩より脱藩の罪を許されるに至る。

この時期の龍馬は、勝門下として上方や江戸などを行き来する中で、京都に滞在することがあった。

最後に半平太在京中の龍馬の足跡を紹介する。気どころの知れた友人であった両者の人生は、文久2～3年をターニングポイントに大きく転回していくことになる。

5.主催・後援

主催：高知県立坂本龍馬記念館(公益財団法人高知県文化財団)

後援：高知新聞社・朝日新聞社高知総局・毎日新聞社高知支局・読売新聞高知支局・共同通信社高知支局・時事通信社高知支局・NHK 高知放送局・RKC 高知放送・KUTV テレビ高知・KSS 高知さんさんテレビ・エフエム高知

6.関連行事

○記念講演会

日時：7月21日(月・祝) 13時30分～15時30分

会場：高知県立坂本龍馬記念館 新館1階ホール

講師：千葉拓真氏(鳥取市歴史博物館学芸員・飯田市歴史研究所調査研究員)

演題：「近世中後期から幕末の諸藩と京都」

○学芸員による講演会(連続講演会)

日時：9月13日(土) 13時30分～15時

会場：高知県立坂本龍馬記念館 新館1階ホール

講師：安岡達仁(当館学芸員)

演題：「京都における半平太の人脈と政治活動」

○学芸員による展示解説

日時：7月21日(月・祝)11時～、8月23日(土)14時～ (各回30分ほど)